令和４年度　江戸川区立春江中学校　学校関係者評価　中間評価用報告書

学校教育目標	○自ら進んで学び、協力して働く生徒 ○規律を守り、責任を重んずる生徒 ○心身ともに健康で、思いやりのある生徒	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○生徒自ら、思考し、判断し、表現する機会にあふれ、生徒の自己肯定感を高める学校 ○自分が進むべき道を自らの力で切り拓き、自分で考え、決め、行動できる生徒。 ○深い専門性をもち、生徒の笑顔を第一に考え、生徒に寄り添い、生徒の成長を支援できる教師。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・組織的な生活指導により授業規律は維持され、生徒の学校生活は落ち着いている。 ・研修や自己研鑽を通し、教員が多くの授業で学習タブレットを活用した授業展開をしている。 ＜課題＞・生徒自身が課題を見つけたり、自分で考えることができるように導く指導が弱い。 ・昨年度に引き続き、全校生徒に占める不登校生徒、毎日の登校に不安がある生徒の割合が高い。教育相談委員会に加え、SSW、SCと連携を図り、組織的に対応し、不登校生徒の減少を図る。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価 取組	自己評価 成果	自己評価 成果と課題	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント	年度末に向けた改善策
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実。	・基礎的、基本的な知識・技能の習得を図る。 ・「確かな学力向上推進プラン」に基づき、全教員がICT活用など授業形態等を一層工夫する。主体的・対話的な授業を実践し、生徒の学力向上させる。 ・学研エルスタッフィングと連携し、年間を通して、補習教室の より一層の充実させる。	・令和4年度「全国学力調査」の平均正答率を3%上回る。 ・1日30分以上家庭学習する生徒を50%以上にする。 ・授業評価アンケートで「わかることやできることが増えていく授業になっている」において、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答する生徒を80%以上にする。	B	B	・数学は平均正答率を3%上回ることができたが、理科については2%下回っている。しかし、学習面のベースとなる授業でしっかりと授業規律、理解、習得が身についていると分析される。今後は、教科のばらつきがあるので、それを改善し、どの教科とも平均正答率を上回れるように授業改善していく。 ・家庭学習に自主的に取り組めていない旨の回答をした生徒が48%となり、改善が急務である。 ・授業評価で肯定的な回答は90%以上であったことは丁寧な指導の成果である。	B	・授業態度が良く、発言したり、話し合ったり、静かに教員の話を聞いていたりしている姿がよかった。 ・学習習慣が身についていない生徒や学習が苦手な生徒にも丁寧な指導をしている点が安心した。引き続き、補習教室などで学習活動を支援していってもらいたい。	・補習教室や試験前の質問の時間などを拡充させ、引き続き、学力に課題のある生徒の支援をしていく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実。	・補助運動を実施して体力を向上させる。 ・本年度設置したスポーツトレーニング部の活動に積極的に参加させる。	・年間を通して、体育の始業において、10分間の補強運動を実施する。 ・特別な理由がなく体育の授業の見学する生徒を2名以内にする。	B	未	・事情がない限りは補助運動を実施している。引き続き、様々な補助運動を通して体力の向上に努める。 ・けがや忘れ物での見学はいたが、「やりたくない」などの理由での見学はいたが、丁寧に指導に改善した。	A	・生徒が楽しそうに授業を受けていた。先生方が様々な工夫をしていたことが良かった。生徒の生涯にわたって健康体を形成する大切な中学期に適切な運動をする機会を多く設けてもらいたい。	・系統性を重視し、習得すべき力、身につけるべき力を明確にして、生徒が見通しをもって授業に臨めるようにしていく。特に自分が「できない」や「苦手運動や種目」について助言や励ましの機会を多く設定する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実。	・生徒自身が必要な情報や自分が知りたいことなど探究的な活動ができる場所にする。 ・東部図書館との連携して学校図書の使いやすいさの充実。 ・学校応援団による学校図書館の整理。	・各学年において、ビブリオバトル等、発表活動に向けて自らが興味をもつ本への探究的学習を取り入れ、発表を年1回以上行う。 ・各教科、教員からの推薦図書を充実させ、図書館で本を借りる生徒を30%以上にする。	A	A	・ビブリオバトルも生徒へ浸透し、発表内容や質は確実に向上してきた。今後は、自分の考えを躊躇なく発表することができるようにすることが課題である。 ・借りた人数は3学年全体で153人と30%を若干下回ったが、引き続き学校図書館の活用や各家庭でも読書をする習慣を身につけさせるように指導と周知をしていく。	A	・保護者がビブリオバトルなどの生徒発表の場が見学できるようになってほしい。 ・図書室の本が充実していた。生徒に本を開かせるための工夫やレイアウトが印象的だった。 ・PTAも引き続き協力していきたい。	・充実した図書室になるように図書館司書とも連携していく。
	生徒の主体性、自己肯定感の向上	・校内研修の充実、生徒向け学校生活アンケートの実施。	・常に授業改善を図り、自己肯定感を高める各教科の指導を工夫していく。 ・「責任ある自由」のもと生徒に自主性・主体性を育む。	・生徒向け授業アンケートを実施し、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目の「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答を75%以上にする。 ・年に1回、生徒との二者面談を学校体制で実施して、生徒理解を深め、良いところを気付かせ励ましていく。	A	A	・「自分にはよいところがある」の質問に肯定的な回答した生徒が74%であった。・「先生は良いところを認めてくれるかり」の項目の肯定的な回答が80. 8%であった。生徒が自己肯定や満足感を得ることは重要なことである。これは教職員が日々のコロナ禍での生徒の精神的な状況を理解し、生徒一人ひとりとの向き合い方を丁寧にしてきた成果である。 ・二者面談などを通して、生徒の自己肯定感を高める学校生活に向け、生徒一人ひとりに寄り添える指導体制を構築していくことが課題である。	A	・「教員、大人が見てくれている」という安心感が生徒から感じられた。先生方には引き続き生徒を信じてあげるようにしてもらいたい。 ・いまだ新型コロナ感染者数は高い数値である中だが、授業なども公開し、保護者が参観できるようにしてもらいたい。	・生徒理解を深め、より一層に生徒の自己肯定感を高めていく取り組みを継続していく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実。 ・エンカレッジルームの活用促進。 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実。	・適切な生徒理解を図り、3～4人1組での学習やプリントを活用して分かりやすい、見やすい授業を展開する。 ・ICTを利活用して、学習上の困難なケースにも対応できる環境をつくる。 ・教職員同士が円滑に情報交換でき、生徒と保護者を交えて全校体制で対応できる環境を形成する。	・一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を展開できるように年に1回校内研修を実施する。 ・オンライン授業を実施する。	B	C	・校内研修を実施し、教室に入れない生徒についても担任と連携を取りながら、スクールカウンセラーやSSW2本人や保護者と面談をして、心の安定を図ることができている。 ・様々な生徒に対応できるようにオンライン授業を状況に合わせて適宜配信している。	B	・どうにか学校に登校できたり、教室に入れるようになってもらいたい。	・外部機関と連携していき、成功体験や成功事例を増やしていく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組の強化。	・食に関する指導内容の充実を図る。 ・生徒と教職員の より良い関係を構築させ、信頼できる関係作りを進めていく。 ・地域と連携し、ボランティア活動の参加を支援していく。 ・給食試食会を実施し、保護者にも食育、給食を知ってもらう。	・保健、家庭科の授業において、「食育教育」を充実させ、朝食をとる生徒を90%以上にする。 ・生徒理解を深めるために、年に1回生徒と二者面談をおこなう。	C	C	・おおむね朝食をとる生徒が87%であった。家庭や日頃の学校での指導の効果から、生徒が食に対する意欲は高いと考えられる。給食や食育指導の様子をHPを活用して周知していく。 ・面談を通して生徒一人ひとりが認められ、励ましていく環境を継続していく。	B	・生涯に健康で生活できるように少しでも食育に興味をもつ生徒が増えるとよい。また、それが習慣となると望ましいと思う。 ・コロナ禍でボランティアの活動など制限されると思うが、地域を愛する気持ちを持たせるために何か実施できることを願っている。 ・挨拶がしっかりとできているのが良い。	・生徒との対話を継続し、生徒理解を深め信頼関係を維持していく。 ・本校の伝統である「挨拶のできる生徒」を継承できるように生活指導主任を中心に生徒指導を継続してできることを願っている。
	特別支援教育の推進	・教育相談委員会におけるSSWやSCと連携し、指導・支援の充実。 ・エンカレッジルームの活用促進。	・教育相談委員会を毎週実施し、情報共有、支援内容などを共通認識を図る。 エンカレッジルームを学校体制で運営し、配慮を要する生徒の居場所となるよう充実させる。	・教育相談委員会で月に1回はSSWが同席に対応や支援生徒の情報や支援を共有し連携を深める。	B	B	・SCや巡回指導員、スクラップサポーターなどとの情報交換、対応などを密におこない、困り感を抱えた生徒の関わりをしっこができた。しかし、不登校の生徒は減少していない。生徒にとって常に良い方策をとるとともに、特別支援についての研修の場を定期的に設定している。	B	・生徒それぞれの個性にあわせた対応をして先生方も、大変だと思いますが、引き続き、丁寧な対応をよろしくお願いいたします。	・引き続きSSWと連携し、必要な家庭への支援体制の充実を図る。 ・エンカレッジルームを利用する生徒の対応や関りの体制を整備する必要がある。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善。	・学校関係者評価が評価して終了ではなく、保護者の連携・協力に活用でき、組織運営の改善に役立てる。 ・学校関係者評価を経て授業改善などの反映状況を保護者に発信する。 ・HPを充実させ、学校のよい取り組みを保護者にも知ってもらい、学校への信頼を高める。	・学校評議員やPTAの役員会を通して、学校の状況や取り組みなどを理解してもらったり、行事などにも参加してもらう。 ・1日1回、HPの「できごと」欄に学校関連の記事を掲載する。	A	A	・学校評議員会では肯定的な意見も多く、PTAが中心となり、学校公開や行事などの手伝いや参加など肯定的に参加してくれる保護者が多い。引き続き、コロナ禍でも対策を施し、行事なども公開し、関係者評価や保護者の意見に心を傾け、協力して生徒を育成していく。 ・HPを更新し積極的に学校の教育活動を発信し	A	・生徒のアンケートを見ると、学校生活が充実している生徒が多いので嬉しく思う。	・学校便り、学年便りなどを定期的に発行と配布をして学校の活動状況を広めていく。 ・地域の方との触れ合い、学校公開などを増やしていく。
	防災教育の推進	生徒が安全に関する知識、資質を身につけ、災害発生時における共助の心の育成。	・消防署、自治会・町会・自治会と協力した防災教室の年1回実施。	・実施後の生徒向けアンケートにおいて、肯定的な意見80%以上	未	未	・防災として地域の巡回や防災の点検など地域が主体となって実施できた。11月に警察、消防、地域が防災教室を実施する予定。	未	・防災教育は地域、区、学校が連携する形となっていて、とても素晴らしいイベントだと思う。 ・実際に体験することでしか得られないこともあると思う。11月の防災教室を楽しみにしている。	・本年度は規模を前年度よりも拡大して実施していく予定である。その中で、生徒のためになるような行事にしていく。
	地域町会等と連携したボランティア活動の推進	教員の働き方改革を推進しながら、地域と協力して行事の実施と地域に根差した生徒の育成。	・生徒が地域の人々とと共に活動し、豊かな人間性や豊富な知識、経験から多くのことを学ぶ行事の実施。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて年2回以上、主催、引率など地域(自治会、町会など)が中心となって運営する行事のボランティア活動を実施する。オンラインで実施できる事案については、オンラインで対応していく。	B	B	・地域として、生徒を育てていこうとする意識が強いので、説明会や指導など地域が主体となって取り組むことができている。コロナ禍の状況から参加する生徒が少ないので、改善していく必要がある。また、区の事業のジュニア助問員のボランティアをオンラインで実施することができた。	A	・生徒の自発的な活動をする場面が増えてきたので嬉しく思う。 ・コロナが収束、または、WITHコロナが浸透して参加できる行事が増えることを期待しています。	・ポスター掲示やteamsを活用してボランティアの案内をしてボランティアの意識を啓発していく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施。	・ICTを多く取り入れ、校務の効率化を図る。 ・ICTを利用できる環境を整え、教職員の生産性を向上させる。	・正規の勤務時間外の在校時間が1か月80時間を超える教職員の数を5人以下にする。 ・配布物などをペーパーレスにして、昨年度より紙の使用量を10%削減する。	C	未	・子育て世代の教員が多い、その中でワークライフバランスを意識できるように声掛けをして、校務が一部の教員に偏ることがないように教員全体で協力しているの。しかし、主任などにいまだに仕事が偏ってしまっていること、仕事過多になっていることを見直していく必要がある。 ・昨年度より5%の削減はできているが、引き続き削減に努める。	B	・先生方の仕事が増えるばかりで大変な中ですが、働き方の改善も考え、生徒のよりよい指導につなげてもらいたい。	・仕事を効率的に割り振っていき過多にならないように改善していく。
	学校のデジタル化	・様々な情報の中から生徒に必要な情報を取捨選択できる能力を身につけさせる。	・一人一台端末を活用した教育活動の推進。 ・デジタル端末を存分に活用し、教育の質を高め、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。	・デジタル教育を推進し、授業にてICTを活用する教員を85%以上にする。 ・保護者の学校への欠席、遅刻、早退の連絡をオンライン化にする。	B	未	・タブレット端末を使用した様々な学習に取り組んでいる。教員によりICTに関する知識や指導力に差はあるが、ICTの支援員に聞いたり、研修をして技術の習得に励み、確実に向上している。また、それを生徒に確実に遵元させることが課題である。 ・保護者からの欠席、遅刻連絡については19月下旬よりformsを活用して実施予定である。	A	・タブレットも導入され、様々な変容があると思う。生徒はデジタル世代で生きてきているので、引き続き有効にデジタル端末を使用してもらいたい。 ・グラフを黒板に映写しているなど工夫が多数されていてよかった。	・教員のICT機器使用の習熟度を高めるために校内での実技研修、研究授業を計画通り実施していく。 ・ICT担当教員を中心にし、どの教員もタブレット端末の使用ができるようにしていく。
	教員の校内研修の充実	・学校経営方針の具現化のために、校内研修を充実させ、組織的・計画的に校内研修を推進させる。	・生徒が自ら学びたくなる主体的・対話的な学びの創造を充実させる。 ・若手教員の人材育成を図るために研修をおこなう。	・明確なテーマをもって、年に1回教員が校内研修を実施し、進捗状況や成果を学び、研鑽していく。 ・年に4回、若手教員に向けて経験ある教員から教員としてのノウハウを学ぶ場面を設ける。	B	B	・生徒向けアンケート(学習面、生活面)の結果を教員が把握できた。それを反映できるようなテーマにした校内研修の実施が課題である。 ・まだ1回だが若手教員が経験ある教員と様々な意見交換ができ自信を深めることができた。	B	・様々な研修が取り入れられて、先生方も良く取り組まれていると思う。しかし、学校現場での先生方の働き方が注目されている。研修などしっかりと時間を確保していってもらいたい。	・講師を招いた校内研修を実施し、より効果的な指導方法を習得できるようにしていく。 ・現在実施しているカフェ研修を継続していく。